

# 検査ガイド

2024年4月～

	項目	正常範囲	説明
計測	標準体重		身長(m)×身長(m)×22で算出されます。
	肥満度		(体重(kg)-標準体重(kg))÷標準体重(kg)×100で算出されます。
	BMI	18.5~24.9	肥満度を表す数字です。BMI=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で算出されます。
	腹囲	男 85.0 cm未満 女 90.0 cm未満	内臓脂肪蓄積型肥満の判定に用いられ、メタボ診断の指標になります。
	体脂肪率		体内の脂肪組織の割合をパーセントで表したものです。
血圧	最高血圧	129mmHg以下	心臓から血液を全身に送り出す時に血管の壁に加わる圧力です。高い人ほど心疾患、脳血管障害の危険度が高くなります。
	最低血圧	84mmHg以下	
尿検査	尿蛋白	(-)	腎臓の病気や膀胱炎、糖尿病、高血圧で陽性になります。激しい運動や発熱時でも一時的に陽性になることがあります。
	尿潜血	(-)	腎炎、結石、膀胱癌など腎、尿路系に疾患があると陽性になることがあります。
	尿糖	(-)	陽性であれば糖尿病が疑われますが、内分泌疾患でも陽性になることがあります。
	ウロビリノーゲン	(±)	肝臓の障害や黄疸の指標となります。
	ケトン体	(-)	脂肪がエネルギーとして使われた時に発生する物質で、陽性であれば糖尿病や飢餓状態などが疑われます。
	尿沈渣		尿の成分を顕微鏡で観察し、赤血球、白血球、上皮細胞、円柱などの数を調べます。
血算	白血球	3100~8499/μL	体内の炎症や感染症、血液疾患で増加します。
	赤血球	男 400~539×10 <sup>4</sup> /μL	いずれも貧血だと低くなり、多血症や脱水で高くなります。特に血色素量は血液中で酸素を運ぶ役目をしているので、不足すると息切れ、動悸、倦怠感などの症状が現れます。
		女 360~489×10 <sup>4</sup> /μL	
	血色素量	男 13.1~16.3g/dL	
		女 12.1~14.5g/dL	
	ヘマトクリット	男 38.5~48.9%	
		女 35.5~43.9%	
	MCV	男 83~101fL	
女 80~101fL		赤血球1個の平均的容積量です。赤血球の大きさの指標になります。	
MCH	男 28.2~34.7pg	赤血球1個に含まれる血色素量を平均的に表したものです。	
	女 26.4~34.3pg		
MCHC	男 31.8~36.4%	赤血球の一定容積に対する血色素量の比を表したものです。	
	女 31.3~36.1%		
血小板	14.5~32.9×10 <sup>4</sup> /μL	減少すると出血しやすくなったり、血が止まりにくくなります。	
肝機能	総蛋白	6.5~7.9 g/dL	肝機能や腎機能の障害などで体内の代謝に異常が生じると変動します。
	アルブミン	3.9g/dL以上	蛋白の一種で肝臓で合成されます。低値だと肝硬変や腎臓病の可能性がります。
	GOT	30 U/L以下	肝機能障害の有無を調べる検査です。GOTは心筋、骨格筋に障害がある場合にも上昇します。
	GPT	30 U/L以下	
	γ-GTP	50 U/L以下	
	LDH	120~245 U/L	肝臓、心臓、腎臓などの細胞に多く含まれ、これらの臓器障害で高値になります。
	ALP	38~113 U/L	肝臓や骨に含まれる酵素です。肝臓や胆道疾患、骨折で高値になります。
	LAP	30~78 U/L	臓器や胆汁に含まれる酵素です。黄疸の鑑別や肝障害、胆道疾患、膵疾患の診断に用いられます。
	総ビリルビン	0.3~1.2 mg/dL	黄疸で高値になり、肝機能異常や胆道系疾患の指標となります。
	直接ビリルビン	0.4 mg/dL以下	
	コリンエステラーゼ	男 245~495 U/L	肝臓でつくられる酵素です。肝障害で低値になります。
		女 198~452 U/L	
	HBs抗原	0.04 U/mL以下	B型肝炎の感染の有無を調べます。
HCV抗体	(-)	C型肝炎に過去もしくは現在の感染の有無を調べます。	
膵機能	アミラーゼ	39~134 U/L	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素です。膵疾患や耳下腺炎で高値になります。
腎機能	尿素窒素	8.0~20.0 mg/dL	蛋白質分解の老廃物で、腎臓から排泄されます。腎機能が低下すると上昇します。
	クレアチニン	男 1.00 mg/dL以下	腎機能の低下により上昇し、腎不全の指標になります。
		女 0.70 mg/dL以下	
推算糸球体濾過量(e-GFR)	60 mL/min/1.73m <sup>2</sup> 以上	血清クレアチニン値と年齢、性別から計算で求められます。慢性腎臓病で低下します。	
尿酸	尿酸	2.1~7.0 mg/dL	プリン体の代謝産物で、高くなると痛風や腎結石の原因となります。

	項目	正常範囲	説明
脂質代謝	総コレステロール	140~199 mg/dL	多くなり過ぎると動脈硬化を引き起こします。
	HDLコレステロール	40 mg/dL以上	動脈硬化を予防してくれる善玉コレステロールです。
	non-HDLコレステロール	90~149 mg/dL	総コレステロールからHDLコレステロールを引いたものです。動脈硬化の指標の1つです。
	LDLコレステロール	60~119 mg/dL	動脈硬化を促進する悪玉コレステロールです。
	空腹時中性脂肪	30~149 mg/dL	食べ過ぎや、飲酒で上昇します。消費されない中性脂肪は皮下脂肪や内臓脂肪として蓄えられます。
	随時中性脂肪	30~174 mg/dL	
糖代謝	空腹時血糖	70~99 mg/dL	血液中のブドウ糖のことです。空腹時は食後10時間以上、随時は食後3.5~10時間未満で測定され、高値だと糖尿病が疑われます。
	随時血糖	70~139 mg/dL	
	HbA1c	5.5%以下	過去1~2ヶ月間の血糖の平均が推測できます。糖尿病診断の指標となります。
電解質	Na(ナトリウム)	135~145 mEq/L	体内の水分バランスや細胞の浸透圧調節、神経伝達など重要な機能を担います。腎疾患、脱水、嘔吐、下痢等の様々な病態で変動します。
	K(カリウム)	3.5~5.0 mEq/L	
	Cl(クロール)	98~108 mEq/L	
	Ca(カルシウム)	8.2~10.0 mg/dL	骨の代謝、筋肉の収縮、血液凝固に関わる成分です。
	P(リン)	2.5~4.5 mg/dL	骨や筋肉を作るミネラル成分です。
血清検査	CRP	0.30 mg/dL以下	体内の炎症があると増加する蛋白質で発熱性疾患やウイルス感染症で上昇します。
	RF定量	15 IU/mL以下	血液中のリウマチ因子の有無を調べます。関節リウマチや膠原病で陽性になります。
甲状腺	TSH	0.610~4.230 $\mu$ IU/mL	甲状腺から分泌されるホルモンです。併せて調べることで甲状腺機能亢進症(バセドウ病)や甲状腺機能低下症(橋本病)などが分かります。
	FT3	2.50~4.30pg/mL	
	FT4	1.00~1.80ng/dL	
胃	H・ピロリ抗体	(-)	胃がピロリ菌に感染していないか調べます。
	ペプシンノーゲン	チャート参照	胃から分泌される酵素の量を測定して、胃粘膜の萎縮の程度や炎症を調べます。
	ABC分類	チャート参照	胃の粘膜に生息するピロリ菌の有無と胃粘膜の萎縮度から胃癌などの胃疾患に罹るリスクをA~Eで判定します。
前立腺	PSA	4.000 ng/mL以下	前立腺癌の腫瘍マーカーで、前立腺肥大でも上昇します。
大腸	便潜血	(-)	痔疾患や胃、腸などの消化管から出血があると陽性になります。
呼吸器	喀痰細胞診	陰性	痰を染色して異常な細胞の有無を顕微鏡で調べます。採取されたものが痰ではなく、鼻汁や唾液の場合は結果が検体不適となります。
眼科	視力	1.0以上	裸眼もしくは矯正視力(眼鏡・コンタクトレンズ等)を測定し、視力低下の有無を調べます。
	眼底		眼の網膜の血管の状態を観察し、動脈硬化・眼底出血の有無を調べます。また、白内障、緑内障の早期発見にも役立ちます。
	眼圧	20mmHg以下	眼球内の圧力を調べます。緑内障などの早期発見に役立ちます。
聴力	聴力(オーディオメーター)	1000Hz 30dB以下 4000Hz 30dB以下	1000Hzと4000Hzの聴力を測定し、難聴や聴力低下を調べます。
循環器	心電図(安静時12誘導)		心臓の動きの状態を電氣的に記録したものです。不整脈・心筋の肥大・虚血・刺激伝導異常などを調べます。
肺機能	肺活量		息を深く吸い込み、ゆっくりと吐けるだけ吐き出したときの息の量です。
	%肺活量	80%以上	同性、同年齢と比較した予測肺活量に対する実測肺活量の比率です。
	努力性肺活量		息を深く吸い込み、できるだけ速く一気に吐き出したときの息の量です。
	1秒量		息を深く吸い込み、できるだけ速く吐いたときの最初の1秒間に吐き出した息の量です。
	1秒率	70%以上	努力性肺活量に占める1秒量の割合です。
動脈硬化	PWV(血圧脈波検査)	チャート参照	手足の血圧を同時に測定し、比較する検査です。動脈の硬さや詰まりの程度が分かります。
	IMT(頸動脈超音波)		首の血管に超音波をあて、頸動脈に動脈硬化やプラークによる閉塞が無いかを調べます。
腹部超音波	腹部超音波		肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓等の病変の有無を調べます。
X線検査	骨塩定量検査(骨密度)	チャート参照	骨内の組織が十分にあるかなど、骨の密度が低下していないかを調べます。
	胸部X線		主に肺、心臓、大動脈に異常が無いかを調べます。
	胃部X線		バリウムにより造影し、食道、胃、十二指腸の疾患(癌、潰瘍など)の有無を調べます。